

## ■ 実施方針

### ◎設計の理念と考え

#### 誰でも利用しやすい施設的设计

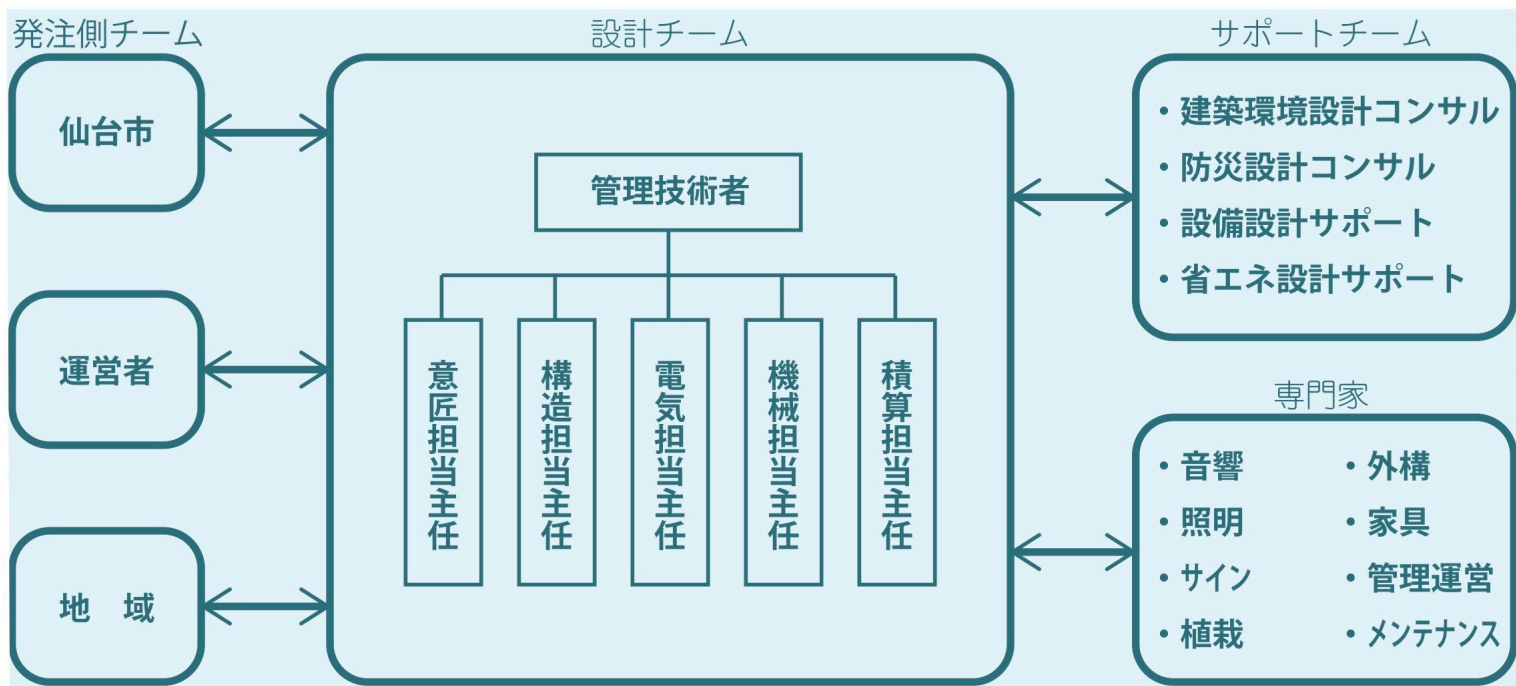
シンプルな空間構成と動線計画により、誰にでもわかりやすく、物理的にも心理的にも敷居の低い施設設計とします。バリアフリー動線を確保して、わかりやすいサイン計画を行うことで誰にでも使いやすい施設をつくります。

#### 街並みへの貢献

すべての建築物は周辺環境と対峙すると同時に周辺環境の一部であるという観点から、計画敷地と周辺環境に合った将来の望ましい街並みへのビジョンを持って個々の建築の設計に誠心誠意取り組みます。

#### 木質系材料の積極採用

木材は純粋に国内で生産できる数少ない建材の一つであり、空間に親和的な印象を与えることができる優れた素材です。構造・仕上・什器に適材適所で地域木材を積極的に活用し、親しみの持てる空間をつくります。



## ■ 面積表

◎地下2階	
ホールエリア	
大ホール	5500 m <sup>2</sup>
奈落	600 m <sup>2</sup>
文化芸術創造支援・活用エリア	710 m <sup>2</sup>
その他	2750 m <sup>2</sup>

地下2階床面積合計 9560 m<sup>2</sup>

◎ホールエリア	11475 m <sup>2</sup>
◎文化芸術創造支援・活用エリア	3500 m <sup>2</sup>
◎災害文化創造支援・発信エリア	1255 m <sup>2</sup>
◎広場エリア	2190 m <sup>2</sup>
◎その他	10515 m <sup>2</sup>

◎地下1階	
文化芸術創造支援・活用エリア	1500 m <sup>2</sup>
その他	2290 m <sup>2</sup>

地下1階床面積合計 4615 m<sup>2</sup>

◎床面積合計	30035 m <sup>2</sup>
◎建築面積	10656 m <sup>2</sup>

### ◎設計を進める上で特に留意すること

#### フロントローディングによる設計期間の有効活用

設計業務においてはプロジェクト進行・スケジュール管理の基本となる全体工程をはじめに提示し、目標となる進捗ペースを明確にします。計画初期段階の重点的な検討で、早期に方向性を定め、手戻りを防ぎます。

#### プロジェクト関係者との設計プロセスの共有化

模型やCGを活用して立体的なイメージを共有しながら、進捗状況に応じて議題を明確化して会議体を運営し、市担当部局、運営者、地域との綿密な対話を重ねることでプロジェクトをそれぞれの関係者の自分ごとにしていきます。

#### 外部各種専門家との多角的検討とデザインの統合

構造設計、電気設備、機械設備、照明計画、サイン計画、植栽計画など、各分野の専門技術者と連携し細部にわたるさまざまな視点から検討しながら、統括技術者としてプロジェクト全体の取りまとめを行います。

### ◎コスト削減に関する提案

#### 設計初期段階からの漸進的コスト管理

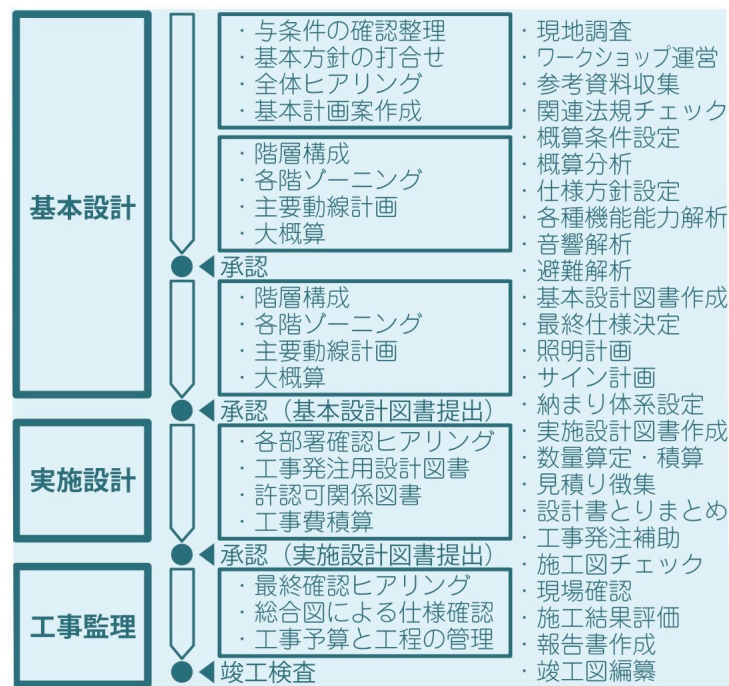
はじめに統計に基づいた概算を利用して最適なコスト配分目標を設定し、設計初期段階の概算から精算へと設計の進捗に伴い、徐々に精度を上げていくことでコストを確実にコントロールし、手戻りを防ぎ、工期を遵守します。

#### 建築・設備システムの費用対効果を徹底検証

内外装の耐久性・維持管理性とコストの比較、熱源や設備システムのイニシャルコストとランニングコストの比較など、ライフサイクルコストに配慮した費用対効果の検証を十分に行い適切なパッケージを提案します。

#### 環境負荷の削減と自然エネルギーの徹底活用

建築外皮の高断熱化を行うことで建物の空調負荷を低減し、地域環境の詳細な調査・分析を行い、卓越風、自然光、雨水、地中熱などを有効に活用することで、ランニングコストを削減し、ZEB Ready 相当以上を達成します。



### ◎将来の大規模改修を想定した設計上の配慮

#### 各種幹線ルートの確保

建築の神経系として配管スペース・配線スペース・ダクトスペースを明確に確保し、余裕を持たせることで将来的な配管・配線・ダクトの部分更新、全面更新がしやすい環境を整えます。

#### 点検口の設置と配管・配線ルートの記録

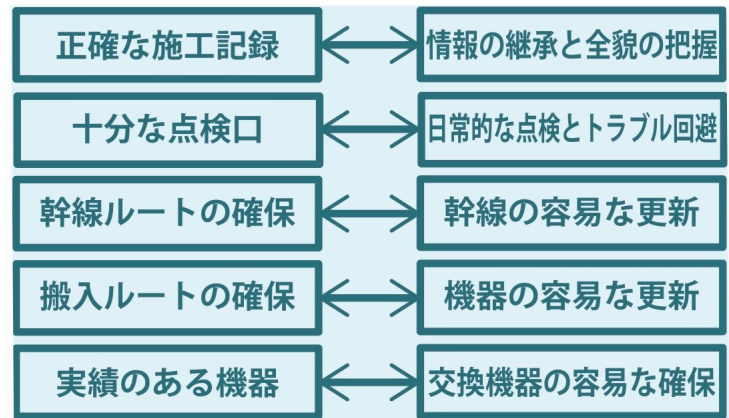
配線・配管・ダクトの主だったジョイントや分岐ごとに点検口を配置し、その位置と中間ルートを設計図・完成図にしっかり記録することで、建物完成後も日常的に系統立った点検が行いやすい環境を整えます。

#### 設備機器の搬出入ルートの確保

車両のアクセス可能口からそれぞれの機器の設置場所までのルートを確認し、設備機器の搬入・搬出がしやすい計画とすることで、将来的に必ずやってくる機器更新が円滑に行えるようにします。

#### 汎用機器を使用したシステム構築

時の洗礼を受けた実績のある機器を組み合わせることで全体のシステムを構築することでイニシャルコストを抑えるとともに、予期せぬトラブルを防ぎ、必ずやってくる将来の機器更新の際の交換機器の確保の安定を図ります。



◎1階	
ホールエリア	
大ホール	340 m <sup>2</sup>
小ホール	335 m <sup>2</sup>
ホワイエ	615 m <sup>2</sup>
文化芸術創造支援・活用エリア	840 m <sup>2</sup>
その他	2245 m <sup>2</sup>

1階床面積合計 4375 m<sup>2</sup>

◎2階	
ホールエリア	
大ホール	970 m <sup>2</sup>
小ホール	275 m <sup>2</sup>
文化芸術創造支援・活用エリア	450 m <sup>2</sup>
運営エリア	945 m <sup>2</sup>
その他	1975 m <sup>2</sup>

2階床面積合計 4615 m<sup>2</sup>

◎3階	
ホールエリア	
大ホール	860 m <sup>2</sup>
小ホール	240 m <sup>2</sup>
ホワイエ	1740 m <sup>2</sup>
広場エリア	2190 m <sup>2</sup>
災害文化創造支援・発信エリア	1255 m <sup>2</sup>

3階床面積合計 6870 m<sup>2</sup>

